東京シンフォニエッタ

第41回 定期演奏会

師弟。その美学

フリードリヒ・ツェルハ
告別（哀歌）
Les Adieux (Elegie)
(2005/2007)

ミカエル・ジャレル
天上で響き渡る鋭い石の音
Droben Schmettert ein greller Stein
(2001)

酒井健治
霧と泡
Fog and Bubbles
(2011-2012)

ゲオルク・フリードリヒ・ハース
深度
La profondeur
(2009)

©Eric MANAS

2017.7.10 [Mon] 19:00開演

東京文化会館 小ホール
全席自由：一般 4,000円　学生 2,000円

出演　指揮：板倉康明　コントラバス：吉田秀　東京シンフォニエッタ

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

主催：一般社団法人 東京シンフォニエッタ
制作協力：東京コンサーツ

助成：芸術文化振興基金／公益財団法人 ロームミュージック ファンデーション／公益財団法人 花王 芸術・科学財団
公益財団法人 NOMURA 野村財団／公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団

東京シンフォニエッタ第41回定期演奏会

師弟。その美学

2017.7.10 [Mon]　19:00 開演
東京文化会館　小ホール

ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督　**板倉 康明**

音楽の修行の裡、特に器楽の技術習得においては、師弟関係は常に明示的に現れ、伝統の継承は常に為されており、どの流派に属する演奏家であるかという事は一聴すれば判明するものの、作曲という内的創造行為の場合には、どのような形をとっていくのであろうか。確かに過去の一時代、いわゆる調性音楽の崩壊以前は作曲においても師弟関係が成立し、特に修行の時期においては明らかに師の影響を受けている作品を生み出している事例もあり得たが、様々な美学が個人様式として表出されている現代の作曲、創造の場においてはどのようになっているのだろうか？何らかの明示的影響は聴き取れるのか否か。今回の演奏会では、酒井、ハースの両作曲家が自身の経歴において「師事した」と明記しているそれぞれジャレル、ツェルハの作品と並置することにより、その秘密を演奏家、聴衆と探っていきたい。

© 堀田力丸

吉田 秀 コントラバス

© 三浦興一

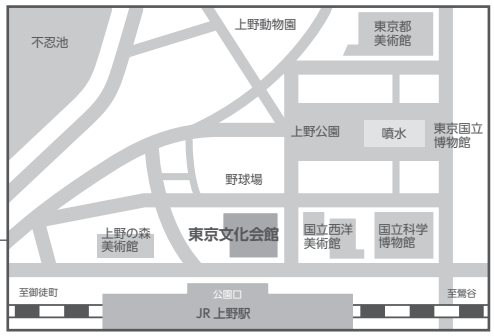
1986年東京藝術大学音楽学部卒業。藝大フィルハーモニア首席奏者を経て91年NHK交響楽団に入団。現在首席奏者を務める。室内楽の分野ではオーギュスタン・デュメイ、ピンカス・ズッカーマン、ライナー・キュッヒル、ギドン・クレーメル、マリア・ジョアン・ピリス、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、マルタ・アルゲリッチ、カルミナ弦楽四重奏団、ベルリンフィルピアノ四重奏団、ターリッヒ弦楽四重奏団、メロス弦楽四重奏団、ライプツィヒ弦楽四重奏団、ゲヴァントハウス弦楽四重奏団、モザイクカルテットなどと共演。またオイロスアンサンブル、東京シンフォニエッタ、いずみシンフォニエッタ大阪、紀尾井シンフォニエッタ東京、鎌倉ゾリステンなどのメンバーとしても活動。霧島国際音楽祭、宮崎国際音楽祭などにも参加。東京藝術大学音楽学部准教授、東京音楽大学客員教授、相愛大学音楽学部非常勤講師。ディッタースドルフ、ヴァンハルのコンチェルトを含むCD『夢』、無伴奏コントラバス曲集『鳥の歌』をリリース。

チケット予約

■ **東京コンサーツ**（問合せ先）
03-3200-9755（平日 10:00-18:00）
http://www.tokyo-concerts.co.jp
発売開始：5月10日（水）

■ **東京文化会館チケットサービス**
03-5685-0650（10:00-19:00 休館日を除く）
http://www.t-bunka.jp/
発売開始：6月1日（木）

アクセス
●**JR 上野駅、公園口 すぐ**
（京浜東北線、常磐・成田線、常盤線、高崎線、東北本線、山手線）
●**東京メトロ 上野駅7番出口**（銀座線、日比谷線）**徒歩5分**
●**京成上野駅、公園口**（京成線）**徒歩5分**



〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45
TEL 03-3828-2111

次回定期演奏会の予告

第42回定期演奏会
知られざる佳曲、様々な美学の交錯
2017年12月7日（木）19:00開演
東京文化会館 小ホール

黒田 崇宏：There are（入野賞受賞作品）世界初演
シモン・ホルト：Lilith
ヴィキンタス・バルタカス：Redditio
オスカー・ベティソン：Vamp

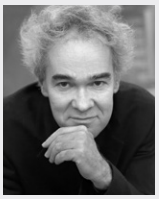
指揮：板倉 康明　東京シンフォニエッタ　※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

酒井健治（1977–）

京都市立芸術大学を卒業後渡仏。フランス国立パリ高等音楽院、ジュネーヴ音楽院を最優秀の成績で卒業、IRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて電子音楽を学ぶ。これまでに、ジョルジェ エネスク国際コンクールグランプリ（2007）、武満徹作曲賞（2009）、エリザベート王妃国際音楽コンクール作曲部門グランプリ（2012）、文化庁長官表彰（2012）、第23回芥川作曲賞（2013）等次々に受賞。2012年マドリード・フランスアカデミーの会員に、15年5月ローマ・フランスアカデミーのフェロー（ローマ賞）に選ばれ1年間ローマに居住。

© Maxime Lenik

ミカエル・ジャレル（1958–）



ジュネーヴに生まれる。同地の音楽院で学んだ後、79年タングルウッドで学ぶ。フライブルクにてクラウス・フーバーの元で学んだ後は、アカント、ベートーヴェン、レニエRCA王妃、ガウデアムス、ウィーン州などの重要な賞を受賞している。86-88年はパリ国際芸術都市を拠点としてIRCAMでコンピュータ音楽の研究をした。88-89年はローマのヴィラメディチス、89-90年はローマのスイスインスティチュートのレジデンス、90-93年のシーズンはリヨンにてコンポーザーインレジデンスを務めた。93年よりウィーン音楽大学教授。96年ルツェルン音楽祭、2000年ヘルシンキ、アルスノヴァ音楽祭招待作曲家、01年ザルツブルク音楽祭よりピアノ協奏曲の委嘱を受ける。04年芸術文化勲章受賞。現在、ジュネーヴ音楽院教授。

© C. Daguet Editions Henry Lemoine

ゲオルク・フリードリヒ・ハース（1953–）

オーストリアのグラーツ生まれ。グラーツ音楽大学でゲスタ・ノイヴィルトとエレト・イヴァンに作曲を、ドリス・ウルフにピアノを師事。81-83年ウィーン音楽大学大学院でフリードリヒ・ツェルハに師事。91年IRCAMの作曲家のための音楽情報学のコース、80、88、90年ダルムシュタット夏季講習会に参加、2004年には同講習会の講師を務める。05-13年バーゼル音楽大学講師、1998年からはグラーツ音楽大学講師、2013年からはコロンビア大学音楽学部の教授（作曲）を務める。

© Priska Kettere

フリードリヒ・ツェルハ（1926–）

ウィーン生まれの作曲家、指揮者、教授、著述家。母国で教育を受け、半世紀以上に渡り彼の名前は母国において現代音楽と同義語と受け止められている。伝統を守りつつ現代の芸術としての新たな作品の開拓者としての活動と同時に、オーストリアの作曲家として悲しい歴史に対して認識を含むファシズムに対する闘いの思いも作中に込められている。その人柄は寡黙で控えめなものだが（ユーモアの素晴らしい感覚、また機会があれば大衆に対して巧みに語りかける能力も持ち合わせているが）現代音楽のために必要とあれば精力的に立ち上がる側面を持っている。58年にクルト・シュベルトジック、後にHKグルーバー、それに夫人であるゲルトラウドと共に、現代音楽のフォーラム、ディー ライヘを立ち上げた。その後は幅広く作曲活動を展開し続けているが、作曲以外で特筆すべき業績としては、ベルクのルルの未完部分の補筆が挙げられる。

© Universal Edition / Eric Marinitsch

TOKYO SINFONIETTA THE 41th SUBSCRIPTION CONCERT